

## 和歌山病院での実習を終えて



楠本 健太

今回、呼吸器内科のポリクリ実習の一部として、国立和歌山病院にて二日間実習させていただきました。大学病院とは全く雰囲気が異なり、なによりも南方医院長の独特で惹きつけられるX線読影の講義がとても印象に残りました。普段の授業とは異なり、自分自身で考えることや、グループで話し合うことはとても新鮮で、また院長の気付きを与えるような丁寧な指導のおかげで、画像の基本的な原理や仕組みについてじっくりと考え、理解に至れたと思います。今後も画像を勉強していくうえで、この根本的な考え方が非常に役立つと考えます。

結核のセミナーでは、初めて結核病棟に入りました。これまでの授業で結核の感染経路や嚴重な感染対策について教わってきましたが、必要以上に危険な感染症であると認識してしまっていたり、暗いイメージを持ってしまっていた事に気づきました。適切な治療をすればほぼ寛解し、適切な対応をすれば感染をほぼ防ぐことができること、また未だに結核で苦しんでおられる患者さんがいることを再認識することができ、とても有意義なセミナーとなりました。

この二日間で学んだことをこれからの実習、また医師になってからも忘れず、南方先生がおっしゃっていたような、患者さんの望んでいることフィードバックできるいい医師を目指していきたいと思います。2日目、和歌山病院を去る時には少し寂しく感じましたが、2日というあの長さがちょうど良い長さであったのかなと今振り返ると思います。2日間全力でそして楽しく、集中して学ぶことができました。

最後になりましたが、受け入れてくださった和歌山病院の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。